

# 道徳学習指導案（6年）

1 主題名 心のこもった礼儀（内容項目 2-(1)礼儀）

2 資料名 「父の後ろ姿（自作資料）」

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

高学年2-(1)は「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する」であり、自然な言動として相手の立場に立って、心のこもった接し方ができる児童を育てる内容項目である。

他の人とのかかわりを大切にし、より豊かに生きていくためには、相手の気持ちや状況をわきまえて心のこもった礼儀正しい行為ができることが大切である。礼儀は、相手を尊重し、相手を敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心が行為に表れてこそその価値が認められ、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。とりわけ、あいさつは、その人自身の気持ちや人とのかかわり方が具体的に態度や動作として表現されたものである。あいさつを通して、人間関係が豊かになり、円滑な社会生活を送ることができる。多くの人と接し、様々なかかわりをもって生きていく児童がよりよい人間関係を築き、社会生活を豊かにしていくためには、あいさつの意義を深く理解し、心をこめ、時と場をわきまえた態度へと深めていく必要がある。

### (2) ねらいにかかわる児童の実態 <省略>

### (3) 資料について

本資料「父の後ろ姿」は、児童の実態を踏まえ、あいさつの大切さを人間関係の広がりや円滑な社会生活の構築へと広げるために、自作した資料である。

主人公のさとしは、あいさつがよくできるとほめられるものの形式的であり、心をこめてあいさつしているとは言い難い。しかし、ある時、あいさつをきっかけに見知らぬ人と親しくなり、互いを認め合える関係を築く父の様子から、自分のあいさつを見つめ、あいさつに対する考えを広げていく。

この資料から、児童がとらえているあいさつのよさを広げるために、主人公の行為の判断理由について考えさせていく。そして、他の人とのかかわりを大切にし、より豊かに生きていくためには、相手の気持ちや状況をわきまえて心をこめたあいさつが大切であることに気付かせていきたい。

## 4 指導方針

- 児童が経験をもとに考えやすい「あいさつ」を取り上げ、経験や読み物資料をもとに、あいさつをする理由を考えることで、行為の判断理由に着目できるようにするとともに、児童一人一人が自分の思いや考えをもてるようにする。
- 児童の考えを板書で整理したり、あいさつをする理由を付箋紙に書いて自分の考えと区別して整理させたりして、それぞれの判断理由を多面的にとらえられるようにする。
- あいさつをする理由を書いた付箋紙を、比較・関連付けながら、大切にされた方がよい考え方の順に並べる活動を取り入れることで、行為の判断理由に着目できるようにする。
- 経験や読み物資料をもとに考えた行為の判断理由や、個人で順に並べた付箋紙をペアやクラス全体で話し合い、「心のものさし」とすることで、行為の判断理由を多面的・客観的にとらえられるようにする。

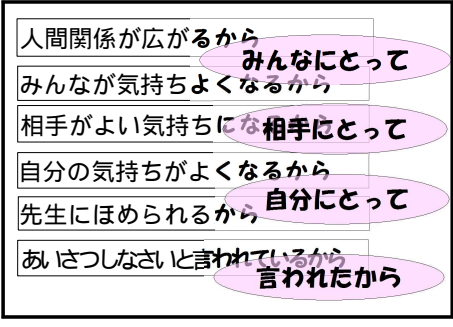
## 5 研究とのかかわり

本研究では、児童の道徳的判断力を高めるために、「心のものさし」を軸に据えた連続型道徳学習を行い、自作の読み物資料を活用して行為の判断理由を考えることが有効であることを明らかにする。

本時は、連続型道徳学習の第1時（「心のものさし」を意識する）に当たり、児童の経験や自作の読み物資料を基にあいさつをする理由を出し合い、あいさつをするもののよさについて考えていく。その際、あいさつをする理由を書いた複数の付箋紙を大切にされた方がよい理由の順に並べる活動を取り入れ、「心のものさし」をつくることによって、児童が行為の判断理由に着目し、行為を判断する見方や考え方が動機重視、多面的・客観的になったかどうかを検証する。

6 本時の展開 (1/3)

- (1) **ねらい** あいさつをする理由の「心のものさし」をつくることを通して、「自分がよい気持ちになるから」「相手がよい気持ちになるから」だけでなく、「お互いを認め合えるから」「人間関係が広がるから」という考えのもとであいさつしようとする判断力を培う。
- (2) **準備** 読み物資料、ワークシート①②、場面絵①②③、付箋紙 (ピンク、黄色 各5枚×人数)
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○あいさつをしているときに心がけていることはありますか。なぜ、その心がけをしているのですか。 ・明るく笑顔で ・大きな声で ・自分がよい気持ちになるから ・相手がよい気持ちになるから	○経験をもとに考えたあいさつをする理由をピンクの付箋紙に記入し、価値への方向付けを行う。 ○友達の意見で共感できる意見は、黄色の付箋紙に追記し、考えを広げていけるようにする。
2 資料を読み、主人公さとしの行為の判断理由を考える。	15分	○さとしはどのような気持ちであいさつをしていたと思いますか。 ・みんなしているから ・ほめられて嬉しいから ◎さとしは父の後ろ姿を見て、あいさつはなぜ大切だと考えたでしょうか。 ・人間関係が広がる ・お互い認め合える	○「同じ思いをしたことはありませんか」と主人公と児童の気持ちを重ね合わせる投げかけをして、児童に自分のこととしてとらえさせていく。
3 あいさつをする様々な行為の判断理由について考え、「心のものさし」をつくる。 ①個人で考える。 ②ペアで伝え合う。 ③クラス全体で考える。	20分	○あいさつをする上で、大切にしたい方がよい理由の順に付箋紙を並べてみましょう。 	○なぜ、そのような順番にしたのか理由も考えさせることで、動機重視になるようにする。 ○個人で並べた付箋紙をペアで見比べた後、クラス全体でどのように並べたか、なぜそのように並べたのかを話し合い、児童から出た意見を類型化させていく。 ○人間の心の中には行為を判断する様々な理由があることを確認する。
4 本時を振り返って、感想を記述・発表する。	5分	○あいさつのことを振り返り、大切だと思ったことを書きましょう。 ・自分のためだけでなく、相手にとって、みんなにとって気持ちのよいあいさつができるとよいと思った。これからは普段の生活の中で、あいさつを意識して、周りの雰囲気がよくなるような元気なあいさつを心がけていこうと思う。	○振り返りの時間を十分とり、児童の見方や考え方の変容をとらえられるようにする。

(4) 板書計画

